

## 第6回 虎ノ門フォーラム

主 催： 特定非営利活動法人ユーラシア21研究所  
日 時： 平成19年10月31日(水) 18:00～19:30  
場 所： 海洋船舶ビル10階ホール

### プログラム

1. 開 会
2. 講 演

#### 「朝鮮半島の有事 —四大国の対応—」

講 師： 阿久津 博康 (AKUTSU, Hiroyasu)  
特定非営利活動法人岡崎研究所主任研究員

3. 質疑応答
4. 閉 会

### 配布資料

- ・朝鮮半島の有事 —四大国の対応— (レジュメ)

#### これからの虎ノ門フォーラムのご案内

11月21日(水) 18:00～ 「北方領土の現状と今後の課題」  
講 師： 児玉 泰子  
(当研究所監事、北方領土返還要求運動連絡協議会事務局長)

12月19日(水) 18:00～ 「ユーラシアにおけるトルコ族の世界」  
講 師： 廣瀬 徹也  
(アジア・太平洋国会議員連合中央事務局事務総長、元駐アゼルバイジャン大使)

## 虎ノ門フォーラム講演レジメ

### 「朝鮮半島有事：四大国の対応」

阿久津 博康

(NPO 法人岡崎研究所主任研究員)

平成19年10月31日（水）

本日お話しするテーマは、南北和解の潮流と周辺諸国の関与政策志向が顕著な現在、極めて不人気（unpopular）であり、蓋然性の低い（unlikely）ものである。それにも拘らず、こうしたテーマに少しでも需要があるということは、「ひょっとしたら」という人間心理の為せる業か、或いは「常に全ての可能性について考えておかねば」という知識人の使命感によるものであろうか。

今回は、朝鮮半島「有事」について、その前提が最近の朝鮮半島情勢の動向により変化しつつあることを確認するとともに、「有事」における4つの重要局面（北朝鮮によるソウル火砲攻撃、金正日体制崩壊、難民大量流出、大量破壊兵器施設混乱）を指摘し、主に米国、中国、ロシア、日本という「四大国」の対応の方向性について皆さんと一緒に考えたい。

なお、今回お話しする内容は、特定の主張を展開するものではなく、単なる個人的な問題提起としてお聞き頂ければ幸いである。

また、予定の内容に若干変更が生ずる場合があることを予めご了承頂ければ幸いである。

#### 内 容（予定）

- 1 朝鮮半島「有事」の意味
- 2 「有事」の前提に関わる最近の朝鮮半島情勢の変化
- 3 「有事」の4つの重要局面
- 4 「有事」における周辺諸国の対応
- 5 「有事」前の必要事項と困難
- 6 関連する他の重要なシナリオ